

平成28年第5回那須塩原市議会定例会

議事日程（第2号）

平成28年11月29日（火曜日）午前10時開議

- 日程第 1 会派代表質問
- 1 4 番 眞壁俊郎議員
1. 第2次那須塩原市総合計画について
 2. 水道事業について
 3. 雇用対策について

出席議員（26名）

1番	藤村由美子	議員	2番	星宏子	議員
3番	相馬剛	議員	4番	齊藤誠之	議員
5番	佐藤一則	議員	6番	鈴木伸彦	議員
7番	櫻田貴久	議員	8番	大野恭男	議員
9番	伊藤豊美	議員	10番	松田寛人	議員
11番	高久好一	議員	12番	鈴木紀	議員
13番	磯飛清	議員	14番	眞壁俊郎	議員
15番	齋藤寿一	議員	16番	君島一郎	議員
17番	吉成伸一	議員	18番	金子哲也	議員
19番	若松東征	議員	20番	山本はるひ	議員
21番	相馬義一	議員	22番	玉野宏	議員
23番	平山啓子	議員	24番	植木弘行	議員
25番	人見菊一	議員	26番	中村芳隆	議員

欠席議員（なし）

説明のために出席した者の職氏名

市長	君島寛	副市長	人見寛敏
教育長	大宮司敏夫	企画部長	藤田輝夫
企画政策課長	小泉聖一	総務部長	和久強
総務課長	菊池敏雄	財政課長	中山雅彦
生活環境部長	山田隆	環境管理課長	臼井一之
保健福祉部長	菊地富士夫	社会福祉課長	田代正行
子ども未来部	藤田恵子	子育て支援課	石塚昌章
産業観光部長	藤田一彦	農務畜産課長	久利生元
建設部長	君島勝	都市計画課長	稲見一美
上下水道部長	邊見修	水道課長	釣巻正己
教育部長	伴内照和	教育総務課長	富山芳男
会計管理者	松江孝一郎	選管・監査・固定資産評価・公平委員会事務局	稲見一志
農業委員会事務局	佐藤章	西那須野支所	関谷正徳

塩原支所長 印 南 良 夫

本会議に出席した事務局職員

議会議務局長 渡 邊 秀 樹

課長補佐兼
議事調査係長 福 田 博 昭

議事調査係 室 井 良 文

議事課長 増 田 健 造

議事調査係 長 岡 栄 治

議事調査係 磯 昭 弘

開議 午前10時00分

◎開議の宣告

- 議長（中村芳隆議員） おはようございます。
散会前に引き続き、本日の会議を開きます。
ただいまの出席議員は26名であります。

◎議事日程の報告

- 議長（中村芳隆議員） 本日の議事日程はお手元
に配付のとおりであります。

◎会派代表質問

- 議長（中村芳隆議員） 日程第1、会派代表質問
を行います。
質問通告者に対し、順次質問を許します。

◇ 眞壁俊郎 議員

- 議長（中村芳隆議員） 志絆の会、14番、眞壁俊
郎議員。
○14番（眞壁俊郎議員） 皆さん、おはようござ
います。
志絆の会、眞壁俊郎でございます。どうぞよろ
しく願いいたします。
また、先ほどは国際医療福祉大学のハンドベル
部の演奏、大変爽やかで、すばらしい演奏を聞か
せていただきました。本当にクリスマスも間もな
く、ことしも1年を過ぎるのかなということでも若
干寂しさはありますが、先ほどいただいた若い力
をこの代表質問にも取り入れて頑張っていきたい

など、このように思っております。

また、きょうは、NHKの番組でやっていまし
たが、いい肉の日だそうです。安い肉を何かおい
しく、焼き方をきょうやってましたので、きょう
の夕方はステーキでも食べようかなと、このよう
に思っております。

早速、代表質問、進めていきたいと思えます。

1. 第2次那須塩原市総合計画について。

那須塩原市は平成17年1月に誕生し、平成19年
3月に第1次那須塩原市総合計画を策定し、「人
と自然がふれあう やすらぎのまち 那須塩原」
の実現を目指し、まちづくりに取り組んできました。
この間、人口減少・少子高齢化や経済のグロー
ーバル化、情報化の進行は、地域社会や経済へ多
大な影響を及ぼしております。また、東日本大震
災のような大災害のみならず、水害等の自然災害
も多発しており、市民生活に大きな不安を与えて
おります。このような状況の中、那須塩原市が解
決しなければならない課題と市民のニーズを捉え
た第2次那須塩原市総合計画が策定されることか
らお伺いをするものであります。

(1)第1次那須塩原市総合計画の検証結果につい
てお伺いをいたします。

(2)第2次那須塩原市総合計画基本構想の趣旨及
び策定過程についてお伺いをいたします。

(3)基本構想における人口ビジョンは、総合計画
を作成する上でどのように活用されているのかお
伺いをいたします。

(4)第1次那須塩原市総合計画後期基本計画と第
2次那須塩原市総合計画前期基本計画の基本施策
及び具体的な施策の主な変更点をお伺いいたしま
す。

(5)前期基本計画の目標設定の考え方についてお
伺いをいたします。

(6)重点プロジェクト設定の考え方についてお伺

いをいたします。

1回目の質問です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 先ほどは国際医療福祉大のハンドベル部の音色に癒されまして、その後、急にまた現実に戻されまして、お答えをしまいたいと思います。

志絆の会、眞壁俊郎議員の会派代表質問に順次お答えをいたします。

初めに、(1)の第1次那須塩原市総合計画の検証結果についてでございますが、第1次総合計画の検証については、市民アンケート調査の分析及び具体的な施策に設定した目標値の達成状況の点検を行ったところであります。

市民アンケート調査におきます41の基本施策に対する満足度・重要度調査の結果では、重要度が高く満足度の低かった施策は、地球環境の保全、清潔で美しい地域づくり、児童福祉の充実、計画的な市街地の形成、体系的な道路網の整備、雇用・就労環境の充実の6施策となっております。

また、目標値の達成状況の点検では、200ある具体的な施策の目標値に対する達成度について、6段階の評価を行ったところ、目標を達成した、おおむね達成したという施策は約62%ございました。計画設定度の現状値から動きがなかったという施策は約17%となっております。

次に、(2)の第2次那須塩原市総合計画基本構想の趣旨及び策定過程についてであります。基本構想の趣旨については、第1次総合計画が作成されてから10年が経過し、暮らしの安全安心に対する関心の高まり、本格的な人口減少・少子高齢化社会への対応など、私たちを取り巻く環境が目まぐるしく変わる中で、今後の10年間においても、

さらなるステップアップに向け力強く進んでいく決意を、将来像であります「人がつながり 新しい力が湧きあがるまち 那須塩原」に込めたところであります。

また、策定経過については、平成27年度から策定に着手しておりまして、総合計画審議会を4回、庁内の検討組織であります策定委員会を4回、ワーキンググループチーフ会議を8回開催したほか、市民アンケート調査や中学生・高校生アンケート調査、市民ワークショップを開催をしております。

また、ことし6月に設置されました総合計画審査特別委員会からも、基本構想へのご提言をいただいているところでございます。

次に、(3)の基本構想における人口ビジョンは、総合計画を作成する上でどのように活用しているかについてですが、人口ビジョンにつきましては、平成27年10月に実施されました国勢調査の結果を基準値とし、総合計画に掲げる基本政策や基本施策を推進することにより得られる効果を見込みまして、平成37年の目標人口を11万5,800人と設定をいたしました。

次に、(4)の第1次那須塩原市総合計画後期基本計画と第2次那須塩原市総合計画前期基本計画の基本施策及び具体的な施策の主な変更点についてですが、第1次総合計画では7つの基本政策と41の基本施策を掲げておりましたが、第2次総合計画では基本政策や基本施策を再編しまして、8つの基本政策と38の基本施策としております。

人と人とのつながりや交流を促進するための基本政策として、地域の力と交流を生み出すために新たに設けまして、市民協働による地域づくりの推進や出会い・結婚の支援などを基本施策としていただいております。

次に、(5)の前期基本計画の目標値設定の考え方についてでございますが、目標値については、具

体的な施策の達成状況をはかるため、数値化とわかりやすい項目を原則に、指標として設定をしているところであります。

最後に、(6)の重点プロジェクト設定の考え方についてですが、重点プロジェクトについては、前期基本計画の5年間で特に力を入れて推進する取り組みといたしまして、基本政策や基本施策の分野にとらわれずに抽出をいたしまして、設定しております。これらを分野横断的に取り組んでいくことによりまして、相乗的な効果を創出して、将来像の実現を目指してまいりたいと考えております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） ただいま第2次総合計画の答弁をいただきました。全てちょっと関連がありますので、一括で再質問させていただきたいと思っております。

まず、第1次那須塩原市総合計画の検証結果で、市民アンケート満足度調査や目標の達成状況、また事業の進捗状況等で検証して、地球環境保全等の6つの施策で重要度が高く満足度が低かったと、こういうことかと思っております。目標達成では約62%ということかと思っております。

このような検証結果から那須塩原市の課題をちょっとどのように捉えたのかお伺いをしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 検証結果から課題をどのように捉えているかということですが、先ほど市長がお答えしたとおり、重要度が高く満足度が低いといった6つの施策については、具体的な施策については当然、重点課題として受けとめているということでございます。

それ以外のところで何かあるかと申しますと、

やはりこれは市民アンケートなんですけれども、市民アンケートの中で、今後10年間の中で市政にどのようなことを望みますかというような設問を設けています。この中で、やっぱり1番が高齢者福祉を充実してくださいというのが1番です。次に児童福祉の充実、これは先ほどの満足度が低いといったところの話とダブリます。3番目としましては、学校教育の充実というものが意向として示されたということでございますので、これらについては、当然のことながら我々も重点課題というところの中で2次の総合計画の中に取り入れてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） それでは、今3つほど重要課題のほかに捉えたということですが、ひとつ3番の学校教育の課題ということで、今回ちょっと若い人のという、ちょっと代表質問で私考えておりますので、この辺の考え方というか、どう捉えてこれからこの学校教育を高めていくんぞということをお聞きしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

教育長。

○教育長（大宮司敏夫） お答えを申し上げます。

これまで教育委員会でさまざまな取り組みをしてきましたけれども、これは今後、日本の国がどのような方向に向かっていくのか、そのときにどのような人材が必要なのかということをお国が結果的に示してきておりますので、それらを踏まえた上で、それにつながっていくような、特に義務教育の場合、つながっていくようなそういった施策をこれまでとってきたわけでありまして、国では次の第3次の教育振興基本計画の策定に今着手したところでございますので、そういったことも踏まえ

ながら、継続して子どもたちが将来、社会人として各分野でそれぞれ持っている力を発揮できる、そういったものにつながっていくような、その基礎となる部分をしっかりと育てていけるような、そんなものになっていくように努力していきたいと、このように考えております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 全くそのとおりだと思います。若い人が希望を持って生きられる、そんな社会が必要かなと思います。

それでは、ちょっとアンケートの調査の関係がありますが、これは大変いい取り組みだなと思ったんですが、まさに10年後、那須塩原市に住んでもらいたい中学生、高校生にアンケートを多分実施していると思います。ちょっとこの結果についてどのように捉えているのかお伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 中高生アンケートの結果についてどのように捉えているかということでございますが、このアンケートについては、やはり那須塩原市の未来を担う子どもたちがどんな思いを持っているかということとしっかりと把握したいということで、今回、総合計画をつくるに当たって、2次をつくるに当たって初めて試みてみたということでございます。

そんな中で、設問は、主なものとしてしまして、10年後の那須塩原市がどのようなまちになってほしいかというような設問と、あともう一つは、10年後の那須塩原市がよりよいまちになるためのアイデアがあったらいただけますかといったようなところがこのアンケートの本当に狙いのところの設問ということでございます。

初めの10年後どのようなまちになってもらいた

いかといった設問に関しましては、4割を超える中学生と高校生の皆さんが、行きたくなるお店がたくさんあるまちというようなところのお答えをいただいたということで、やっぱりにぎわいの創出といったところの部分を求めているのかなとかなといったところが一つですね。

また、よりよいまちになるためのアイデアというところの中では、やっぱり関連するようなお答えということで、商業施設やレジャー施設の充実をしてくださいといったような意見が多数寄せられていたということでございます。

このような中高生の皆さんの意向を踏まえる中で、我々としては、重点プロジェクトの中で魅力創出プロジェクトというものを位置づけまして、町なかのにぎわいの創出というものをしっかりと現実にしていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。先ほどもちょっとあったんですが、中学生、高校生、どちらも行きたくなる店がたくさんある町だったんですね。多分、場所は特定はしていないと思うんですが、やはり私は那須塩原駅前だと思います。やはりそちらがやっぱりしっかり発展していかないといいまちにはならないのかなと私は思っております。ぜひその辺はしっかり取り組んでいただきたい、このように思います。

もう一点、ちょっと全体のアンケートの関係で、市政の満足度で20歳から40歳の若い年代で若干、市政に対して不満であると感じている人が多い傾向にあるという捉え方をしておりますが、この辺、ちょっとどのように考えているのかお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 20歳から49歳の若い世代というようところが市政に対する満足度が低い、市政に関して満足されていないというのはどうかということなんです、これはアンケート結果というのを見ても、市政に対して不満であるというふうに回答した人の割合は、年代別に見てみますと、20から29歳までが9.5%の方、そして、30から39歳までが10.2%の方、40から49歳までが14.3%の方が不満と答えているということでございます。他の年代と比べるとということで、50から59歳の皆さんは5%、60から69歳の方が5%ということでございますので、今、議員ご指摘の20から49歳の方々は、ほかの世代に比べて満足していない度合いが高いといったことが言えると思います。

この年代の方が、さらに深掘りさせていただいて、どのようところで不満を持っているかというような項目を探してみると、やはり児童福祉の充実、あるいは雇用・就労環境の充実といったところに対して不満を感じているというようところでございます。

我々としましても、こういうところを重点課題というふうに位置づけて、少しでも前進するように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） そのとおりだと思います。若い世代が満足できるまちづくり、これは今、私たちが進めている地方創生を進める上で、これは一番重要なことだと思っております。若者のゼヒニーズをしっかりと捉えていただきたいと、このように思います。

検証ということで、第1次那須塩原市総合計画の市の将来像でありました「人と自然がふれあう

やすらぎのまち 那須塩原」の実現については、どのように捉えているのかお伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 10年後の那須塩原市のまちづくりということでご質問いただきましたが、先ほど私のほうから申し上げました第2次の総合計画の那須塩原市の将来像ということで、「人がつながり 新しい力が湧きあがるまち 那須塩原」というこのテーマを設定させていただいたところがあります。これには、まず、市民が主役というようなこと、そして、市民優先の市政が基本というふうな私の考え方、メッセージを込めさせていただいたところでございます。

その上で、市民一人一人の力、また地域で支え合う力、まだ見ぬ那須塩原の埋もれた魅力、そういったもの、さらには、未来に向かってたくましく生きる力等々、新しい力を市民の皆様とともに巻き起こしながら10年後、持続可能な都市として、この那須塩原市がさらなるステップアップに向けたまちづくりを進めていく決意、こういったものを目指すべき将来像ということで設定をさせていただいたところでございます。

たくさんの新しい力が湧き上がり、私たちの周りに満ちあふれることで、那須塩原市が未来永劫、元気なまちであり続けることを今回の第2次総合計画、これに盛り込んだということでご理解をいただければと思います。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 第1次総合計画で言っていました、検証結果というか、当然、前に将来像という形の中で、「人とふれあう やすらぎのまち 那須塩原」というのがあったかと思うのですが、それをどのように考えているのかというの

をちょっとお伺いしたかったんです。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 実は第1次総合計画の策定が平成19年で行われました。あれからはや11年が経過をしてしまったということになるわけですが、そのときに担当でございました。で、「人と自然がふれあう やすらぎのまち 那須塩原」というふうなテーマを設定させていただいたところではありますが、先ほど企画部長のほうからも答弁がありましたとおり、六十数%ある程度施策は達成できたというふうなことで、この第1次のテーマをそのままというわけには私もいかないだろうということで、今回新たなこのテーマを設定をさせていただいたということでもあります。

決して第1次総合計画のこのテーマを忘れたわけではなくて、それにステップアップを加えるというふうな形で考えているところでもあります。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 将来に向かってということかと思えます。

検証、そして評価というのは、次の課題を見つけるためには非常に重要なことかと思えます。ぜひこれからの改善、充実を図ることで、次の計画につなげていくことが大変重要であります。これから第2次那須塩原市総合計画前期基本計画や関連の各種計画が作成されてきますので、その辺を捉えて、しっかり議論を重ねて計画の作成に当たっていただきたいと、このように思います。

基本構想における人口ビジョンの活用であります。総合計画や各種計画の目標数値を決める上で人口の推移、これは大変重要なものであります。平成37年における本市の人口目標を11万5,800人、このようにしてありますが、これについての理由についてお伺いをいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 本市の目標人口11万5,800の設定理由ということでよろしいかなというふうに思います。こちらについては、先ほど市長のほうからも答弁がございましたが、2次計画に掲げます移住・定住施策等々を積極的に推進することによって得られる効果といったものを見込ませていただいた上で、合計特殊出生率、そして転入転出動向、そんなものを現状よりも改善させるといった仮定のもとに推計を行いまして11万5,800人といった目標人口を設定したということでございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） そのようないろんな政策を進めて、これから、人口はふえていけませんので、いかに抑えていくかというような設定の仕方かと思えます。そういう意味では、やはりこの人口推移というのは、うまくいかなければもっと減っていくというようなものかと思っております。ぜひその辺十分に考えていただきたいなど、このように思っております。

あと、総合計画の後期基本計画と第2次那須塩原市の総合計画の前期基本計画、こちらの基本施策及び具体的な施策の変更点でありましたが、先ほどありましたが、人と人のつながりということで、基本政策として、地域の力と交流を生み出すためにということで、新たに出会い、また結婚支援等を行うということでありました。ぜひこういうものをしっかりやっていただいて、人口増へ取り組んでいただきたいなど、このように思います。

第2次前期基本計画の素案で示されている関連計画があるかと思えます。そちらの中で、仮称と

いうことで那須地域広域公共交通網形成計画、また那須塩原市広域公共交通網形成計画、また結婚サポート総合戦略、牛乳本州日本一を生かしたまちづくり計画、この辺が示されておりますが、これについてどのような計画なのかお伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 眞壁俊郎議員に申し上げます。

1項目ずつの質問に変えていただけますか。

○14番（眞壁俊郎議員） では、まず、素案で示されている那須地域広域公共交通網形成計画、これと、これは関連ありますので那須塩原市の広域公共交通網形成計画、これについてお伺いいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

生活環境部長。

○生活環境部長（山田 隆） それでは、公共交通の担当であります私のほうからお答えをさせていただきます。

まず、那須地域の定住自立圏の関係の広域の公共交通網計画について、それから市で独自でやる公共交通網計画、あわせて、まず、この公共交通網計画というところではありますが、これは公共交通に関するマスタープラン、いわゆる基本計画でありまして、市の公共交通に対する基本的な考え方、あるいは方向性を定めたものであります。それぞれ広域、それから市の、それぞれの計画を立てていくというところがあります。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。この計画につきましては、やはり高校生が交通の便が悪い、こういう答えが出ております。若者もそういう感覚でおりますので、ぜひしっかりしたものをつくっていただきたいなど、このように思います。

それでは、続いて、結婚サポート総合戦略につ

いてお伺いをいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

企画部長。

○企画部長（藤田輝夫） 結婚サポート総合戦略についてでございますが、こちらにつきましては、少子化の要因といたしまして未婚化、晩婚化といったものが挙げられる中で、出会いから結婚までのサポートといったものを総合的、計画的に支援していくための戦略ということで現在策定をしているというものでございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） この計画についても、当然、人口をふやしていくと、この計画になるかと思っておりますので、ぜひいいものをつくっていただきたい、このように思います。

じゃ、もう一件なんです、これはこの間、多分、新聞か何かでも出ていたかと思いますが、牛乳生産本州日本一を生かしたまちづくり計画、こういうのがありますが、その辺どのようになるのかお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 牛乳生産本州一を生かしたまちづくり計画についてでございますが、一言で言いますと、本市が誇る酪農を中心に市民が一丸となって地域の活性化を推進していくための計画というふうなことでございます。

まちづくりの仲間、それから、うまいもの、安心して働ける場、そういったものをつくる、そのための5つの基本目標を設定しまして、那須塩原市オリジナル乳製品の研究開発や担い手の確保支援など12の戦略を設定し、酪農の活性化、地域の活性化を目指していくための計画となっております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） これは新聞のほうでも見ましたので、わかりました。非常にいい計画だと私は思っております。まさに那須塩原市、牛乳の町でありますので、ここをやっぱりしっかり魅力につなげるというのが大切かと私は思いますので、そんなまちづくりをぜひお願いしたいと思えます。

重点プロジェクトの考え方ではありますが、市の将来像、「人がつながり 新しい力が湧きあがるまち 那須塩原」、これの具現化、また、那須塩原市が県北地域の中心都市となるためのまさにステップとして5年間で力を入れて推進する取り組みだということでもあります。あわせて、単独の具体的な施策の推進だけでは解決することが難しい課題に対して、個々の具体的な施策を政策や施策の分野に捉われず抽出して、それぞれの施策を連携させながら全庁挙げて分野横断的に取り組んでいくということでもあります。それで、相乗的な効果の創出を目指していくということでもあります。

その中で、地域力の向上、そして魅力創出、未来力育成、都市力成長の4つのプロジェクトがこれで示されているところでありますが、まさにこの後10年後、「人がつながり 新しい力が湧きあがるまち 那須塩原」、これの実現、解決するところを期待するところであります。

先ほど市長のほうからは、しっかりやっっていくんだということ聞きましたので、全庁挙げて分野横断的に取り組んでいくということでもありますので、これは絶対、市長のリーダーシップが私は必要だと思いますので、ぜひ力を入れてやっただきたいと、このように思います。

那須塩原市が名実ともに県北地域の中心都市となることを大いに期待をいたしまして、第2次那須塩原市総合計画については終わりにいたします。

2. 水道事業について。

那須塩原市の水道事業は、平成17年の市町合併後、事業統合、料金体系及び水道加入金の統一、開閉栓手数料改定を行ったほか、老朽管更新や配水管整備等を実施し、安全安心な水の安定供給を継続するための事業を行ってきました。

災害対策や人口減少を踏まえ、安全、強靱、持続の観点から水道事業の課題を捉え、将来を見据えた事業計画を立案し、より効率的な水道事業を目指し、新たに那須塩原市水道事業基本計画が策定されたことからお伺いするものであります。

(1)那須塩原市水道事業基本計画の策定趣旨についてお伺いをいたします。

(2)水道事業の現状と課題についてお伺いをいたします。

(3)水道事業の将来像についてお伺いをいたします。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 2の水道事業についてのご質問に順次お答えをいたします。

初めに、(1)の那須塩原市水道事業基本計画の策定趣旨についてであります。本市水道事業の運営指針となります那須塩原市水道事業基本計画が平成28年度をもって終了することから、現状と課題を整理し、国が示します安全な水道、強靱な水道及び水道サービスの持続の3つの観点から将来を見据え、より効率的な水道事業の運営を目指し、新たに策定したものであります。

次に、(2)の水道事業の現状と課題についてお答えいたします。

水道事業を取り巻く環境は大きく変化しており、人口減少社会の到来に伴う給水収益の減少が予想される一方で、事業創設時から整備してまいりました水道施設の老朽化による施設の更新や災害に

強い水道事業の構築など、多額の費用が見込まれるところでございます。

水道事業が将来にわたって安全で安心な水道水を供給していくためには、中長期的な財政見通しのもと、財源確保に努めるとともに、有収率の向上や適切な料金水準の確保、さらには、現在策定を進めております経営戦略により経営の安定化を図る必要があると考えております。

最後に、(3)の水道事業の将来像についてお答えをいたします。

新たに策定した水道事業基本計画では、安全でおいしい水の提供、災害に強い水道施設の構築及び適正な資産管理に基づいた社会の変化に対応可能な水道事業経営の確立を実現するために、市民に信頼される水道をスローガンといたしまして掲げ、基本目標と実現方策を定めておりますので、これらの取り組みにより安全で安心な水道水を継続して供給してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 水道事業の答弁をいただきました。関連がありますので、一括して再質問させていただきたいと思っております。

水道事業基本計画の策定指針につきましては、今までの計画がこの28年で終了するという、また、東日本大震災や関東東北豪雨において水道施設に甚大な被害を受け、災害対策の強化が課題になっている。また、人口減による水道料金の収入減少、水道施設の老朽化が進んでいる。そのような中、国が示す安全、強靱、持続の3つの観点から水道事業の抱える課題に対する対応策と目指す方向性が国から示されたところであります。

このような考えのもと、将来を見据えた事業計画を立案し、より効率的な水道事業の運営を目指し策定されたものと、これについては理解をいた

します。

再質問になりますが、東日本大震災や関東東北豪雨において水道施設が甚大な被害を受けました。この中で、やはり緊急時に備えた危機管理、こういうのが非常に重要になってくるかと思いますが、これの対応についてはどのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 緊急時の対応についてお答えを申し上げます。

緊急時対応につきましては、もちろん庁内等の関係機関との関連、それから、いざ災害が起きたというときには、関連市町からの支援というようなことが大変重要であると思っております。加えて、災害に対する備蓄等々が必要と思っておりますので、これに対する備えを進めていきたいというようなことで考えております。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） この基本計画の中で、いろいろ書いてありますので、ぜひそのことをしっかり捉えていただいて災害の対策について取り組んでいただきたいと、このように思います。

先ほど水道事業の課題についてお伺いをいたしました。施設の老朽化の更新、また被害に強い施設の構築など、多額に費用が今回かかってくるということかと思っております。ここで今後10年間のちょっと収入と支出、この辺の財政状況の見通し、この辺どの程度の金額になっていくのかというのをちょっとお伺いしたいと思っております。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） お答え申し上げます。

今後の給水収益の減少ということが予想される

と、その中で老朽化対策、それから耐震化対策といったところで多額の経費が必要といったことで考えているところでございます。

ビジョンを策定した時点での想定の事業費でございますけれども、これは10年間で130億程度というふうなことで見込んでおります。これに対する収益というようなところでは、現在、27年度程度の料金収入が上がりれば何とかやりくりができるかなというふうには捉えておりますけれども、今後の給水収益、もしくは人口の減少によるというところでは落ち込むというふうな可能性もありますので、このあたりについては、施設の長寿命化でありますとか統廃合でありますとか、そんなところを考えながら経費の節減といえますか、投資額の節減というようなところで検討してまいりたいというようなところで考えております。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 今もありましたように、収入より支出が上回る、人口減少がこれからますますなってくると、まさに給水人口も減ってくるという中では収入は減ってくると自然には考えられますので、ぜひこの計画の中では水道料金も上げなければならないというような書き方になっております。この辺もう一度ちょっと確認したいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 水道料金につきましては、具体的な今、方向性といえますか、そのあたりといえますのは、やっぱり人口の減少、それから収益の推移、これを見ながら判断していきませんと、現時点ではいつ上げるとかというところではお答えはできないところでございますので、いずれにしても、給水収益の動向といえます

か推移といえますか、その辺を注視をしながら、市長からもご答弁申し上げましたが、経営戦略の中で検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。水道料を上げるということは、やはり市民にとっても厳しいことになるとお思いますので、ぜひその前にしっかりした対応をお願いしたいなど、このように思います。

財源の確保ということで、問題点でありましたが、有収率の向上ということも課題だということでありました。ちょっと財源の確保であります、平成27年度の決算で1億円を超える未納がありましたが、このような状況の中で、今後やはりしっかり集金しなければいけないのかなと思いますので、どのような対応を考えているのかお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 未納への対応でございますけれども、まず、未納を発見するということでは、未納者に対して督促状を発行するというところでございます。最終的には給水を停止するというようなところで収納に努めているというところでございまして、当初、督促状を発送するというようなところを基準にいたしますと、停水予告というのを途中で行いますけれども、この中で半分ぐらいの滞納者に対して納入があるといったことがございます。実際に停水を行うというような状況になりますと、残るところでは5%以下というようなところでの滞納が減るというようなところでございます。

このようなことで、給水停止という方向

を前面に打ち出しながら滞納を減らしていきたい
というようなことで考えております。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。年間、
その給水停止というのは何件ぐらいやっているの
かお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 実際に給水停止とい
うところがございますけれども、執行件数としま
しては1,000件近いところでございます。しかし
ながら、この給水停止を行うというところになり
ますと、その後すぐに料金を窓口のほうに払って
いただくというようなことになりますので、おお
むねでございますけれども、給水停止というのは
実際には80件程度かなというふうなことで考えて
おります。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 80件程度という形で、
私も多いのか少ないのかちょっとわからないんで
すが、なかなか停止をしないと払わないというお
客さんも結構いますので、その辺の判断はぜひし
っかりやっていただきたいなど、このように思い
ます。

また、経営のちょっと安定化ということで、那
須塩原市の水道事業経営戦略、こういうのがある
かと思いますが、この経営健全化を取り組み続け
る必要があるということでもありますので、これに
ついてどのようなちょっと戦略なのかお伺いた
いと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 経営戦略につきまし
ては、大きくは2点でございます。

目標といたしましては、投資の計画、それから
それに対する財源の計画というところで、これら
を試算を行います。それで当然ながら収支のバラ
ンスを見ながら計画を進めるというところでござ
いますので、これらについては、先ほど申し上げ
ましたが、料金の動向とか、それから投資額の平
準化とか、そんなところがこの計画の中で見込ま
れるというようなところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。ぜひこ
の経営戦略ですか、しっかり取り組んでいただ
いて、やはり水道事業が長く継続できるような形に
していただきたいと、このように思います。

また、水道施設や水道の管路、この辺がやはり
老朽化、かなり進んでいるということでもあります。
また、この中で浄水施設耐震化率、また、あと配
水池耐震施設率というんですか、もう一つが基幹
管路の耐震化率ですか、これがちょっとこの計画
の中で、全国、県内、かなり低い状況になってお
りますが、これはやはり地震等に対して非常に危
機的状态なのかなと、私はちょっと思うんです
が、そんな中で、これについての今後の対応をど
うに考えておられるのかお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 耐震化率のところ
でございますけれども、基幹管路の耐震化率とい
うところでは、ビジョンに掲げてございますけれ
ども、約2割ぐらいしか終わっていないというこ
ろでございます。この基幹管路につきましては、
避難所でありますとか、あとは緊急輸送路とい
うようなところに対するところの給水管というこ
とになりますけれども、これらについては、やは
り優先して整備をしていかなければいけないと思
っております。加えて、浄水場につきましては、耐

震化がまだ全く終わっていないというところがございますので、これらについては、懇談会のミッションの中でもそれぞれの優先度を決めた上で進めていきたいというふうに考えてございます。具体的には鳥野目の配水池でありますとかそんなところをこれから計画していきたいというふうところでございます。

したがいまして、これに基づいて耐震化に努めていきたいというふうなところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 耐震化ということで、本当になかなか進んでいないという状況が、私も初めてわかったわけなんです、本当に地震ですね、今、毎日のように来ているところもありますので、この耐震化率、非常に重要だと思います。ぜひしっかり取り組んでいただきたいと、このように思います。

これから給水人口や水需要は当然減ってきます。その中で、やはり規模の適正化とか、縮小とか、集約とか、こういうことがこれからやっぱり必要になってくるのかなと私は思っているんですが、この辺についてどのように考えているのかお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 人口減少により水需要が減少傾向にあるという中では、これを踏まえた施設の将来の施設規模の配置でありますとか見直し、そういったところを検討して、これらの適正化を図っていきたいというふうに考えてございます。

当市の水道事業でございますけれども、これまで建設してまいりました水道施設につきまして、必要水量といったところに対しまして余裕がある計上になっているというふうなところもござい

ますので、それに加えて小規模な施設が点在するというような現状もございますので、これらについては、地勢、それから水の利用の状況なんかを勘案しながら施設の集約化、それから適正化などについて図っていきたいというふうなところで考えてございます。

これらの考え方につきましては、これから策定いたします中長期更新計画の中で詳細を詰めていきたいと、そんなところで考えております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。これから計画で適正化に努めていくということかと思いますので、理解したいと思います。

先日のちょっと新聞情報だったんですが、厚生労働省が水道事業危機、これに備えて広域連合、また民間力の活用、これを進めるために、早ければ来年、水道法の改正案を国会に提出するというような情報がありました。今後、広域連携、民間力の活用は大変、私、重要になってくるかと思いますが、この辺についてどのような考えがあるのかお伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 具体的な考え方というところでは現在持ってございませんけれども、県のビジョンの中でも広域的な連携というふうなところで打ち出されているという状況です。他県では広域的な連携というところで、例えば浄水施設の管理を統合しますとか、運転を統合して民間に任せるとかというふうなところでスケールメリットを求めるといふようなところが主眼かなと思っております。

これらについては県関係、それから関係市町等と当然ながら協議が必要だということでございますので、県の意向というか、そんなところも踏ま

えながら今後、将来に向けて検討する必要があるかなというところでは考えてございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） いろんな方向性から考えていただきたいと、このように思います。

また、那須塩原市には県の北那須水道事業所があります。これの活用についてはどのように考えているのかお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 北那須水道につきましては、整備が進んでいるという状況でございますので、水質面というところでは適正な管理が行われているといったところで考えてございます。本市、当然ながら高い浄水の供給が見込まれるということで考えてございます。

本市では水源水質なんか不安定な場所がございますので、これらについては北那須の水道を活用することによりまして、水道水の安全性が高まるというようなところでは考えてございますが、これについては、伴いまして維持管理の省力化でありますとか効率的な運用というようなところで図られると思っています。

ただし一方で、北那須水道につきましては、地理的条件とかによりまして活用できないようなケースがあるかと思えます。活用に当たりましては、県水の供給量でありますとか需用費等の比較も含めて調査、それから検討が必要かなというところでは考えておるところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。県の施設があるということでありますので、特に那須塩原市にありますので、ぜひこれはうまく利用したほうが私はいいいのかなと思えますので、そちらの検討もしっかりしていただきたいと、このように思

います。

課題の中で有収率の向上がありましたが、那須塩原市の有収率については、平成26年度77.7%と全国平均の90.6%よりかなり低い水準であります。これまで老朽管の更新や漏水調査を行って多額の費用もかけているところではありますが、この有収率が低下しているという現状であります。これは早急に原因の解明が必要であると考えておりますが、これに対して今後どのような対応を行うのかお伺いいたします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） これまで老朽管の更新というところで配水管の更新を行ってきたところでございます。あわせて、これらの更新によりまして耐震化も図られるといった状況でございます。

有収率につきましては、合併当時から見ますと、26年度ベースで約7.7ポイントほど上がっているという状況にございますけれども、整備を行っているにもかかわらずというところで、それほど向上していないというところがございますので、向上に結びついていないというような状況だというふうに思っています。

これまで老朽管更新につきましては、本管の工事、それから本管から宅内の止水栓までの工事、あわせて実施しておりましたが、未整備の老朽管でありますとか、宅内の止水栓からメーターまでの間というようなところの給水管のあたりで漏水があるからというふうなところでは予測はされませんが、実際に毎年、有収率が変動している状況にありますので、原因については現在のところ特定ができてないというところが正直なところでございます。

したがって、これらにつきましては、調査

検討が必要であるというところで、今年度につきましては、有収率が特に低いというところで、塩原地区について詳細な調査をかけているというような状況でございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。塩原地区、有収率、こちらの記入だと53.4、また関谷地区が66%ということで、これはもう本当にひどい、低い数字かと私思っております。ぜひ早急に調査をしまして、この有収率の向上につなげていただきたいと、これは強く要望したいと思っております。

水道事業の将来像であります、水道事業基本計画の策定に当たりまして、ワーキングショップで水道事業の目指すべき姿について議論をされております。これについてどのようなお話がなされたのかお伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） ワークショップと庁内の職員の中でというところで行ったところでございます。現在の水道事業の抱える課題等を踏まえまして、将来目指すべき方向性というところで、その辺を求めたというところがございます。この将来の目指すべき方向性というところでは、先ほど市長から答弁申し上げましたけれども、市民に信頼される水道というようなところを目指すべきであろうというようなところがございます。

理由といたしましては、安全で安心な、さらにおいしい水を将来にわたって供給できるというところが水道事業の目的だというようなところがございますので、市民に信頼される水道というようなところを目標に掲げたというところがございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 議論することは非常に大切なことだと思います。特に職員がしっかりと議論することで、やはりすばらしい事業になっていくと思っておりますので、ぜひそのワーキング的なものは、今回に限らず、いつもやっていただきたいなと、このように思います。

また、市民アンケートも、これ実施しているかと思いますが、市民からどのような意見が出たのかお伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

上下水道部長。

○上下水道部長（邊見 修） 市民アンケートにつきましては、設問を16ほど設けたというところでございます。回収率につきましては、1,000世帯に送りまして400通でございますので40%強の回答があったというところがございます。

内容といたしましては、水道水は飲みますかとか、飲みませんかとかというそのあたりの理由、それから、災害の対策はお宅ではどのようにしていますかというようなところ、それから、節水の意識はございますかというようなところ、それから、優先的に実施してもらいたいというようなところではどんなことを考えているのかというようなところをアンケートを行ったというところがございます。

このアンケートの内容につきましては、まずはおいしい水を供給してもらいたいというところが大きい状況がございます。それから、水道の料金についてやっぱり興味があるというところがございますので、加えて、安全性を確保していただきたいというような回答もございました。それから、水を飲まない理由といたしましては、安全性に不安だというようなところの意見もございましたので、これらについては、全く安全な水が供

給できているというところではPRをしていきたいというようなどころでは考えてございます。

以上です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 那須塩原の水、私もいろんなところに行っていますが、大変おいしいと思います。ぜひ頑張っていたきたいなと思います。

市民に信頼される水道、私も非常に期待しておりますので、水道事業を取り巻く環境、大変厳しい状況であります、安全安心な水の供給がいつまでもできることをご期待いたしまして、水道事業についての質問を終わりにいたします。

○議長（中村芳隆議員） 質問の途中ですが、ここで10分間休憩いたします。

休憩 午前11時05分

再開 午前11時15分

○議長（中村芳隆議員） 休憩前に引き続き会議を開きます。

14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 項目、最後になります。

3. 雇用対策について。

完全失業率や有効求人倍率では、雇用情勢は改善しているものの非正規労働者の割合は4割を超えており、雇用者間の格差や貧困が拡大するなど、働く者を取り巻く環境は厳しい状況にあります。少子高齢化と人口減少が進行する中、那須塩原市においては、県内初となる栃木労働局との雇用対策協定を結ぶなど、雇用の創出と安定を重要課題と捉え、雇用対策に取り組んでいることから伺いするものです。

(1)那須塩原市の雇用情勢をどのように捉えてい

るかお伺いいたします。

(2)那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略Koyou（雇用）の市内への企業立地促進・雇用創出の取り組み状況についてお伺いをいたします。

(3)栃木労働局との那須塩原市雇用対策協定の実施状況についてお伺いをいたします。

(4)非正規労働者の割合が4割を超え、同一労働同一賃金などの論議が行われているが、那須塩原市では非正規雇用労働者（臨時職員・有期契約労働者・パート労働者・派遣労働者等）を多く抱えていることから市の考えをお伺いいたします。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員の質問に対し、答弁を求めます。

市長。

○市長（君島 寛） 3の雇用対策について順次お答えを申し上げます。

初めに、(1)の那須塩原市の雇用情勢をどのように捉えているかについてですが、直近の有効求人倍率は、黒磯ハローワーク管内で1.30倍でございました。大田原ハローワーク管内では1.01倍となっております。業種によりましては有効求人倍率が回復するなど、雇用情勢に改善の兆しも見えているところでございますが、求人側と求職者間のミスマッチ現象が続くなど、依然として厳しい状況にあると捉えているところでございます。

次に、(2)のまち・ひと・しごと創生総合戦略のKoyou（雇用）の市内への企業立地促進・雇用創出の取り組み状況についてでございますが、サテライトオフィスの誘致や既存企業の拡張支援のほか、企業誘致や既存企業の事業拡大のための奨励制度の検討を進めているところでございます。

次に、(3)の栃木労働局との雇用対策協定の実施状況についてでございますが、若者の雇用対策、U I J ターンの促進、子育て中の人や障害者等へ

の就業支援、産業振興と雇用創出・雇用確保の一体的な取り組みを柱といたしまして、高等学校における企業説明会や中学校キャリアガイダンス、企業による小学校への出張授業などの取り組みを進めているところでございます。

最後に、(4)の同一労働同一賃金についてでございますが、国レベルで現在、調査検討が進められている課題でございます。国県の動向を注視しながら迅速な情報の提供や改善等、私どものほうでもPRに努めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 雇用対策について答弁をいただきました。これも関連がありますので一括で再質問したいと思います。

那須塩原市の雇用情勢、先ほどありましたように、黒磯ハローワークで1.3、大田原ハローワークで1.01、有効求人倍率では回復の兆しがある。ただ、求人、求職でミスマッチがあって、依然として厳しい状況であると、このような捉え方かと思っております。

ここでミスマッチということで、新規学卒者を初めとする若年層がやはり大変厳しい状況だと私は考えております。その辺なんです、那須塩原市として若者の状況、この辺をどのように捉えているのか、また考えているのかお伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 新規学卒者を初めとして若者の雇用についてというご質問でございますが、新卒者の就職率等、数字的には回復の傾向にはございます。ただ、議員おっしゃるように、中身はどうなんだというようなところかと思うんですが、なかなか希望する職種にはつけない。第

1希望ではないけれども就職をして率が上がったという状況はあるかというふうに考えております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） やはり先ほどもあったようにミスマッチというか、そういう状況かと、このように思っております。

何点かちょっと再質問させていただきます。

まず、那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略、K o y o u（雇用）で、先ほどありましたが、サテライトオフィスの誘致とか、もう一つ大型ショッピングセンター、またテーマパークの誘致活動、このようなところが入っておりますが、現在どのような取り組みをしているのかお伺いしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） まず、サテライトオフィスの誘致活動の状況でございます。

これまで何度かお話はさせていただいておりますが、サテライトオフィスの誘致については、一昨年から専門家に委託をしましてIT関連の企業を中心に企業回りをしてニーズ調査等を行っているという状況です。業種的には、最初は世界に名立るといいますか、大きなIT関連企業等を回っていましたが、その後、中小の企業等も回らせていただいております。具体的に成果として誘致はできてないというのが状況ではございますが、現地調査等にいらしていただいて当市の状況を見てもらったというようなところまで現在進んでいるという状況です。

もう一つ、大型ショッピングセンター、テーマパーク等というお話でございますが、こちらのほうは、なかなか行政が旗を振って大型ショッピングセンター、テーマパークを誘致するというのは、現実にはなかなか難しい状況。これまでにいくつ

かショッピングセンターについてはお話があり、事業者が中心となって水面下で検討はしたというところまでは行っておりますが、形として結びついているというような状況にはございません。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） サテライトオフィスの誘致の関係は、いろいろやってるんですが、まだ成果が出てないということであります。この辺、なぜ成果が出ないんだというようなところは分析なされているのかお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 一番、企業さんが心配をしているのは、特にIT関連を回っておりますので、人材の確保というところでのご心配が一番多いようでございます。

東京からの距離的には那須塩原市、非常に恵まれている。それから、強固な地盤のところでは自然災害も少ないというところ、また、自然環境、温泉等、すこぶる良好だというお話はいただいておりますが、一番心配されているのは人材の確保だというふうに、幾つかの企業さんからお話を頂戴しているという状況です。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 人材の確保が難しいということでもあります。やはり東京あたりには結構たくさんいるんだろうなと思うんですが、東京から1時間ちょっとで来るところですよ。先ほど、今、すばらしい地域だ、震災にも強いということなんで、ぜひ、やはりそういうところをしっかりとPRをしていただいて、那須塩原は安全ですよ、ここに置いておけば間違いありませんよと、そういうことをしっかりと取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほどありましたが、企業誘致や拡大のための

奨励制度を検討しているということでありましたが、この辺ちょっと詳しく、もし説明できればお願ひしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 制度の改正の検討の状況ということでございます。今、庁内でさまざまな検討を行っております。なかなか細かいところまでお話できる状況にはございませんが、今ありました、例えばサテライトオフィスなんか、そういった小さな雇用を生むような業種にも奨励制度の拡大を図れたらどうだろうと。現行の条例ですと、製造業限定の大きな、従来型の企業誘致を想定してつくっていますので、もう少し小回りのきくものにしていったらどうか。また、あわせて、大きな企業さん向けにも、それなりにインパクトのあるインセンティブをとれるような制度設計ができないか。もう一つ、一つのポイントとして、企業さんがこちらに立地するというだけでなく、地元の雇用にどれだけ貢献するんだと、結びつくんだというような視点でも検討を進めているというようなところでございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） わかりました。最後の、地元の企業ということでもあります。創生総合戦略の中でも新規就農者、また創業者への支援、こういうものに取り組んでいると思っておりますが、その辺の状況をお聞かせ願ひしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 地元の企業ということでお話をさせていただきますと、先ほどお話しさせていただいた制度改正の中でも、今、本市が定住促進を一生懸命進めていますが、企業版の定住促進ではございませんが、既存の企業をどうや

って支援できるのか、そして、定住につなげる、事業拡大につなげる、そういったところの奨励策等についてもあわせて今回の改正の中で取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） あと、新規就農者とか創業者への支援というような形を多分取り組んでいるのかなと思うのですが、その辺お聞きます。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 新規の創業、それから就農ということでございます。新規の創業を目指して、こちらのほうは商工会が主に事業主体としてやっておりますが、創業支援塾というような勉強会を開催しまして、そこで経営のノウハウについて学び、さらに、そこで学んだ方が創業したいというようなところまで行けば、今、市の制度といたしまして、こちら委託をしておりますが、チャレンジショップというようなものを用意している。もう一つ、資金的にも創業支援資金というようなところを用意をさせていただいております。

新規就農者に対しましても新規就農の補助、こちらのほうは国県補助等も制度としてございますので、その辺を活用しながら新規就農者の増加を図っているというような状況でございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 那須塩原市は、農業は県内一の生産額という形になっておりますので、ぜひ農業の部分もしっかり頑張っていたきたいなど、このように思います。

栃木労働局との協定が結ばれましたが、これの実施状況であります。先日、ちょっと忘れちゃったんですが、清峰高校でしたっけ、これ実施はなされたんでしたっけ。まだ。

○議長（中村芳隆議員） 眞壁議員、しっかりと質

問してから答弁しますので。

○14番（眞壁俊郎議員） 来年度からということでもありますので、今後やはり、これ非常に重要な形になるかと思っておりますので、しっかり取り組んでいただきたいと思っております。

この栃木労働局との協定の中で、事業計画の策定や運営協議会の設置をすることということになっておりますが、この辺の状況はどのようになっているのかお伺いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 運営協議会については既に設置をいたしました。会議もそこで行いまして、協定に基づく事業計画を策定し、役割分担等、ハローワークとの間で行っていると。その中の一つとして、先ほど議員おっしゃいました清峰高校ですか、で行いました高校生の事業なんかも、そこで企業説明会、これは来月、ちなみに行う予定でございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） そのほかに今、運営協議会で話し合っているということでもありますので、事業計画、どのようなものがあるのかお伺いしたいと思っております。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 今年度策定いたしました事業計画の主な内容で申し上げますと、先ほど市長の答弁にもございましたが、若者の雇用対策、それからU I J ターンの促進、子育て中の人への就業支援、障害者等への就労支援、それから産業振興と雇用創出、雇用確保の一体的な取り組みを推進するというのが大きな項目でございます。

若者の雇用対策の中身といたしましては、高校に出張しての説明会や中学校におけるキャリアガ

イダンス、それから、UIJターンといたしましては、全国ネット、国のネットを活用した求人情報の発信、職業相談等、さらに、子育て中の方の就労就業支援といたしましては、子育て支援セミナー等の開催、それから託児つきの就職セミナー、面接会の開催、また、児童扶養手当を受給されている方が更新手続があるわけですが、そこに出張しまして、そこでの就労支援というような中身、それから、障害者等への就労支援といたしましては、自立相談支援窓口との連携による就労支援、また、産業振興、その他一体的な取り組みとしましては、市、栃木労働局管内2つのハローワーク、また、宇都宮にあります新卒応援ハローワークとの連携、企業との連携というような中身でできております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 雇用対策は市で進めるのは大変、これ難しいと思います。今ありましたように、栃木労働局、そしてハローワーク、商工会、地元企業、あとは農業関係者等、いろいろな方面とぜひ連携をしていただいて取り組んでいただきたいと、このように要望したいと思います。

最後の項目になりますが、同一労働同一賃金であります、国レベルで今検討が進められているということで、動向を注視したいと、あと対応したいということでありました。その中で、やはり那須塩原市の非正規雇用労働者の割合、もしわかればお伺いをしたいなと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

産業観光部長。

○産業観光部長（藤田一彦） 非正規労働者の割合と、議員のご質問にも4割という数字が出てまいりましたが、そちらのほうの統計は、国が抽出調査で行っている、施策の基礎資料とするために行っている抽出調査の数字で、全国的な数字でそれ

はとれているはずで、県単位でのまとめなんかは全くその統計では行われていないという数字でございます。

当然、市単位のものも行われていないというようなところでございますが、私どもの持っている数字ですと、国勢調査の中に、やはり雇用関係の数値がありまして、平成27年の国調ですと、人口は既に集計されて公表されていますが、細かい作業がまだ済んでいませんので、平成22年の国勢調査の数字で申し上げますと、正規雇用労働者の割合は64.2というような数字になっております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 非正規の労働者の把握というのはなかなか難しいかなと私も今思いました。ぜひ、ただ、そういう問題は非常にこれから出てくると思いますので、しっかり数字的なものも捉えていただきたいなと、これは要望したいと思います。

あと、あわせて那須塩原市役所、こちらではかなり非正規労働者の数があるかなと思います。この辺の数のほうをお聞きしたいんですが、よろしくお願いします。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（和久 強） 市の職員の関係でありますので、私のほうからお答えをしたいと思います。

まず、任期の定めのない正式職員といいますが800人、そして、任期の定めのある職員というふうなことで785人というふうなことになっております。率でいいますと、任期の定めがあるというふうなほうが49.5%というふうな状況になっております。

その内訳ですけれども、再任用職員、これが30名、それから任期付職員が2名、それから臨時職員が691名、そして非常勤特別職、これは社会保

除加入者というようなことで限定をさせていただきたいと思いますが、62名というふうな内訳となっております。これは11月1日現在の状況というふうなことでございます。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） 全国平均より高いということでございます。この辺なんです、これちょっと難しいかと思うんですが、市としてやはりそういう職員を抱えておりますので、ちょっとどのような考え方があるのか、ちょっと難しいかと思いますが、お聞きしたいと思います。

○議長（中村芳隆議員） 答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（和久 強） 同一労働同一賃金というふうなことでありまして、本当に国を挙げて今、議論がされているところだというふうに思っております。ただ、国家公務員、あるいは地方公務員、公務員につきましては労働契約法、この該当適用にはならないというふうなことでございます。そんなこともありますけれども、やはり国全体の動向等につきましてもこれから注視していかなければならないというふうには考えております。

特に、きょうの新聞の報道でも、その格差の基準を埋めるためのガイドラインを策定するというふうな報道もありましたので、そういったものも今後注視していきたいというふうには考えております。

○議長（中村芳隆議員） 14番、眞壁俊郎議員。

○14番（眞壁俊郎議員） ぜひ市のほうでもしっかり考えていただきたいなど、このように思います。

非正規労働者の人数は年々増加をしております。今後、国において同一労働同一賃金や働き方改革などの議論が進められてきます。若年層の失業率は全年齢と比べても高いものになっております。就職を希望しながらも未就職のまま卒業する人も

おります。大卒者の3割、高卒者の4割の人が卒業後3年以内で離職している、こういう状況であります。フリーターの数は180万人前後で、これは推移しているということでもあります。また、非正規雇用についての理由として、正社員従業員の仕事がないから、こういう回答をしている不本意非正規労働者の割合も、他の年齢に比べて若年層は高くなっております。

那須塩原市においては、各種団体と連携をしっかりと、いろいろな雇用対策を実施しておりますが、特に将来を担う若者が安心、そして納得して働き、その意欲や能力を十分に発揮できる社会の実現を目指して雇用対策に取り組んでいただけて、志を強く要望いたしまして、志の会の代表としての質問を終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（中村芳隆議員） 以上で、志の会の会派代表質問は終了いたしました。

以上で、会派代表質問通告者の質問は終了いたしました。

会派代表質問を終わりたいと思いますが、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（中村芳隆議員） 異議なしと認めます。

会派代表質問を終わります。

◇

◎散会の宣告

○議長（中村芳隆議員） 以上で、本日の議事日程は全て終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。

ご苦労さまでした。

散会 午前11時42分